「コレでなければ分類学ではない」というような主張が，横行しないことを期待する．

少なくとも，「この分類表の順序に標本棚を配列しよう」とする標本室は，たとえ新設の機関でも現れないのではないか？「不確定要素が多いから，しばらく様子を見よう」ということになるのだろう．ただしこれは表向きの理由で，「現行の配置と違いすぎるのは不便だ」という保守派が大勢いる間は動かせないだろう．高等植物の標本室の配列は，一次元でやるほかはない．コケ類のように，名前の ABC 順に標本を配列する分野なら，こういう問題はあまり起らないのだが...

（金井弘夫）

□横浜植物会：**横浜植物会の歴史 — 創立 100 周年記念誌 —**　B5 判 . 382 pp. 2009．同会．ISBN: no number.

わが国の植物同好会で最古の歴史を持つ横浜植物会の百周年記念出版である．口絵 7–64 頁では，さまざまな時代の採集会の情景や肖像写真によって，お名前でしか知らない方々の風貌や手跡に接したり，服装や装備の変遷をたどったりすることができる．これに加えて，貴重な植物の標本，最新の植物画などが並んでいる．65–242 頁は資料篇で，会報を含むいろいろな出版物から抽出した会史関連の記述，年報・会報総目次，例会記録，会員の執筆活動記録，役員関係記録などが見られる．先頭の沿革が 1 頁，年表が 6 頁は簡単すぎるように見えるが，後続の頁の詳細な記事がそれに代わっている．243–296 頁は会員や関係者の記念投稿，297–378 頁は当会関係の歴史的資料・標本に関する特別寄稿である．多士済々の会員達が総力を挙げて制作したものなので，どの頁を開いても読み切れない内容で，横浜植物会ばかりでなく，日本の植物分類学の歴史の参考資料として有用である．

最後に一つだけ不満を言うと，ブックケースがキツすぎて，本を取り出すのが大変だったし，しまうのにも強引に押し込まねばならなかった．これでは不便なので，ブックケースを解体して組み立て直した．飾っておくものではないので，たまたま私が手にしたものだけの事例であってほしい. 頒価は記されていないので限定頒布と思うが，連絡先は次の通り．240- 横浜市 (Tel/Fax ．横浜植物会．（金井弘夫）

□日外アソシエーツ：**植物 3.2 万名前大辞典**　A5. 772 pp. 2009 (第二刷). ¥9,333．日外アソシエーツ．ISBN: 978-4-8169-2120-9 C0545.

第一行の見出しが「アアソウカイ亜阿相界」とあるので，栽培植物の品種名がたくさん出ていて，作出した新品種の名前を考える参考になるかも知れないと思った (本誌 **83**(2): 124)．本書は植物名（コケ，菌，地衣，藻を含む）の仮名読みを見出しとして，漢字名のあるものはそれを示し，ごく簡単な記述によって，より詳しい記述のある文献への手がかりを与えることを目的としている．凡例によると，集録対象は国内の代表的な図鑑・百科事典とある．アアソウカイの説明は「パキポディウム・ジェエイの別名」である．そしてパキポディウム・ジェエイを牽くと「(*Pachypodium geayi* Cost. et Bois) キョウチクトウ科．別名亜阿相界。高さは 8 m。花は白色．園芸植物」である．本書の目的からすれば，説明が物足りなくても仕方がない．しかし，ざっと見たところ，学名の仮名読みの見出しが多く，園芸品種名はあまり目につかない．そこで学名の仮名読みと栽培品種名の見出しの数がどのくらいあるかを調べてみた．学名の仮名読みは 38 %，栽培品種名は 8 % だった．栽培品種名は，通常の図鑑に出てくるような普通なものはかぞえなかったから，そういうものを含めれば 10 %，3,200 件程度だろう．ここで考え込んだのは，学名の仮名読み綴りで検索する需要がそんなにあるのだろうか，ということだ．属の学名の仮名綴りは普通に流通しているから，その源を探る必要はあるだろう．しかし種名までを学名で口にする人が，いまさらこういう辞典を使うとは思わない．それに学名の仮名文字表現は，人によって異なる．最新園芸大辞典では，上の植物はパキポジューム・ジーイイである．この本の目的からすれば，ありそうな綴りはみんな示した上，統一した表示法を決めればよさそうに思うが，そういう配慮はされていないようだ．*Viola* はビオラ，ヴィオラかと思ったら，ウィオラという綴りしか出ておらず，おまけに「ウィオラ」の見出しには「ニオイスミレの別名」とあるだけだ．もっとも，スミレの項を見ると「菫 (*Viola mandshurica*)」と「スミレ科の属総称」とが別項目として立てられているから，わかる人にはわかるだろう．また *Smilacina* はスミラキナとスミラシナで別な植物の見出しに使われている．原典の表示がまちまちなのは仕方がないが，こう